

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム まえさわ苑折居館

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500238		
法人名	社会福祉法人 つつじ会		
事業所名	グループホーム まえさわ苑折居館		
所在地	〒029-4201 岩手県奥州市前沢古城字北館21番地1		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の状態、それぞれの思いに沿った支援を心掛けています。グループホーム在籍年数が長い職員が多く、利用者との馴染みの関係、信頼関係を築きやすい状態が維持されています。家族の方々から、この慣れた環境でいつまでも過ごせるようにという要望が多く、長く入所しているうちに状態が低下してきた方々についても、グループホームでできる限りの支援ができるよう、様々な職種との連携を図り取り組んでいます。利用者の皆様には、コロナ禍であっても楽しく過ごしていただけるよう、感染症予防対策を行ないながら、季節ごとの行事を工夫し実施しております。自分でできる事はやっていきたいという利用者の意欲をくみ取り、残存機能を活かした日々の活動を支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、陸中折居駅に近い国道4号線沿いにある、特別養護老人ホームに併設された1ユニットのグループホームである。開所時に職員が考案した「ゆっくり・一緒に・楽しく」とする理念に基づき、毎年職員が実践する行動目標を設け、今年度の上期は「ドライブや散歩等を積極的に実施し、外での気分転換を図る」とし、外出は昨年度より多く提供している。また、日常的には、1階廊下にある金魚の観察やお盆期間にはホールに設置した盆棚へのお参り等施設内の散歩も励行している。週1回の健康チェックやケース検討には、併設の特別養護老人ホームから看護師が来所し、健康管理面での安心感がある。コロナ禍においても、地元中学生との交流事業は縮小しつつも継続し、書面開催の運営推進会議にも各委員から多数意見が寄せられている。今後は、地域との繋がりと事業継続計画を視野に、運営推進委員の拡充や災害対策の強化による事業所運営の一層の向上が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム会議にて毎回施設理念を唱和し、振り返りを行なっております。	4項目の法人施設理念のほか、開所当時の職員で考案した「ゆっくり・一緒に・楽しく」とするグループホームの理念を利用者支援の基軸としている。毎年3期に分けて実践する行動目標資料と反省資料の冒頭にも大きく表示し、職員への浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍であり、直接的な交流は現在行なっていませんが、中学生からの様々なメッセージ入りプレゼントを届けて頂き、お礼の手紙を送ったりし、交流を続けています。近所の方からは、時々野菜の差し入れがあり、ありがたい支援を頂いています。	コロナ禍で、地域の祭りやイベントが中止されている中、前沢中学校の生徒との交流は継続され、玄関でのプレゼント贈呈や生徒の歌や踊りを収録したDVDが寄贈されている。利用者はお礼の手紙を「何て書こうかな」等と思案しながら、職員の手助けで書き上げている。地元の花火大会には、会場へは出かけず、事業所東側の田圃で鑑賞した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、感染症予防対策の為、以前行っていた実習や職場体験の受け入れは控えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、近隣のコロナ感染者状況を見ながら行っており、書面開催で行なう事が多い状況です。その都度、委員の方々からの意見や提案をいただき、運営に反映できるよう取り組んでいます。	各委員からは、会議資料に対する意見や要望が毎回寄せられ、事業所から丁寧に回答している。コロナ禍での書面会議であっても、会議開催の趣旨が各委員に浸透している様子が関係書類より窺える。前回の外部評価後、委員の拡充を計画していたが、コロナ禍での書面開催が続き進展していない。	地域とのつながりをより深め、事業所理解と利用者支援を進めていただきたい。児童民生委員や行政区長等の委員委嘱を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は、運営推進会議に参加している行政職員とのやり取りが主となっている為、頻回とは言えませんが時々報告や相談を行なっております。	前沢総合支所の市民福祉グループ長に運営推進委員をお願いし、照会や意見をいただいている。事故報告は管理者が本庁窓口に出向いて提出し、担当者と顔の見える関係が出来ている。コロナ禍前の市主催の研修会や行政説明には、管理者が出席していた。	

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在2名の利用者が離床センサーを使用していますが、転倒防止の為の見守り重視を目的としたものです。身体拘束廃止委員が法人内で行なわれる会議に参加し、その都度内容を職員に周知したり、アンケートによる意識調査を行ない、拘束に対する考え方、支援方法の振り返りをし、取り組んでおります。	身体拘束廃止委員会は、法人本部と折居館でほぼ半々の割合で毎月開催され、事業所からは2名の職員が委員として出席している。会議記録は委員が作成後、事業所内で周知確認している。職員のアンケートや日常業務では、声かけのトーンが気になるスピーチロックがあり、管理者が職員会議で注意喚起しているが、職員相互のその都度の声かけ対応は課題となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	既存の身体拘束廃止委員会に虐待防止検討委員会を加え、一体的に取り組んでおります。定期的に行われる会議の報告書や資料にて職員に周知しています。法人内の指針やマニュアルも作成しています。アンダーマネジメントやケアチェックシートを用いて、全職員が振り返りや、確認を行なう等の取り組みも実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料による理解と確認を行なっています。権利擁護に関しては、虐待防止検討委員会にて関係する内容を話し合い、周知しております。支援方法に活用できるよう、今後更に知識を深め取り組んでまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族に対する説明を行ない、理解と納得をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話のやり取りにて、家族からの要望を聞いたり、利用者の状況から必要と思われる支援を、速やかに実践できるよう会議等で検討するようにしています。	家族要望は、面会制限緩和の意見が殆どで、感染状況を勘案しながら、ガラス越し面会の際に、声が聞こえるようマイクを使用したり、アクリルパネル利用へと切替えている。5名の利用者家族が東京や仙台、盛岡等の遠隔地に住んでおり、主に電話で連絡したり意向の確認となっている。	

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日頃の業務の中で出された提案や意見は、関係者との話し合いを持ち改善につなげています。	降雪時、駐車場の除雪作業まで手が回らないことから、職員の提案で近隣に住む職員の家族に作業を依頼した。また、法人内で各委員会等の会議が多く、負担が大きいとの反省から、月1回の職員会議を隔月開催とした。週1回月曜の午後2時より開催される週礼には、施設長も出席し各部署代表者との日程確認の他、意見交換や提案に留まらず、待遇改善の要望等の機会にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面や労働状況、負担について把握し、必要に応じて職員との面談を行ない、改善に向けた取り組みを行なっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、定期的な研修を実施し、専門的な技術、知識の向上に向けた取り組みを行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での情報交換を行なう事はありますが、継続的な交流はなく、ネットワーク作りは行なわれていません。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の情報から、利用者に必要な支援について話し合い、安心してケアを受けていただくよう、統一した支援を行なう事を心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族の状況を細かく聞き取り、要望等に応えられるような取り組みを行なっております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接、契約時の話し合いから、必要としている支援をケアプランに取り入れますが、利用者の状態に合わせ、その他必要と思われる支援は随時検討し、取り組んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれができる事を役割分担し、家事作業等を一緒に行ないながら過ごしています。利用者の意欲、役割意識の向上につながっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以前は、通院や外出支援をお願いしていましたが、現在はガラス越しでの面会時に話しをして頂いたり、電話での会話を勧め、安心感を持っていただくよう家族との関わりの支援を行なっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、家族、親戚以外の方との接触を控えていただいているため、知人の方等との関わりは、間接的な形となっています。行きつけの美容院も利用できず、施設内の対応のみとなっています。	面会制限が続く中、遠隔地に住む5名の家族には事業所の電話を利用し、利用者とは話をしている。また、家族に出す手紙の支援も行っている。オンライン面会も実施してみたが、利用者の反応が乏しく低調だった。新聞の貸し借りで来所する併設の特別養護老人ホーム入所者や、毎週健康チェックに来所する看護師が馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前より、利用者間の相性に問題が多く見られるようになり、対応に頭を悩ます状況になっています。その都度利用者の了解を得ながら、席替えの工夫をしたり、活動時の関わり方に配慮を行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体機能低下により、特養に移行された場合でも、交流は継続できるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、本人の思いや要望を聞きとるように心掛けています。特に入浴時等は1対1での会話で、話しやすい雰囲気のため、傾聴に努めより良いケアにつながるよう取り組んでいます。	共有ホールでは会話の少ない利用者も、職員とマンツーマンの場面では会話が弾み、思いや意向を話す貴重な機会となっている。家族面会時非番だった職員に「家族と話した内容」を話してくれる利用者もいる。認知症の進行による2名の意志疎通困難者には、何度か働きかけることで「うん」や「嫌」の返事を引き出したり、表情や仕草で推察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、家族や親戚の方々から得た情報を集め、把握に努めています。また、前に担当していたケアマネから話を聞く事もあり、必要な情報を職員間で共有しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、申し送りノート、口頭での申し送りを密に行なう事を心掛けています。急ぎの連絡事項はグループホーム職員のグループラインを活用し、速やかに対応できるようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3ヶ月ごとにモニタリングを実施。サービス担当者会議は6ヶ月ごとに実施し、現状とケアプランの見直しについて話し合いを行っております。参加者は、担当職員、看護師、ケアマネージャー。家族の参加は現在、感染症予防対策のため控えていただいております。ガラス越し面会や、電話、手紙にて状態を報告し、支援方法の相談、確認をする事で了解をいただいております。	隔月の職員会議開催前に、それぞれの担当職員は、利用者の状況や検討事項をカンファレンス資料に入力し、会議時に検討している。カンファレンスには、健康チェックに協力している併設の特別養護老人ホームの看護師も参加している。状態が安定している利用者の介護計画は、6ヵ月毎に見直し、現状、サービス担当者会議に家族の出席を見合わせているため、電話や手紙で報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他、申し送りノートも活用しながら、速やかな情報共有を行ない、支援に反映できるよう心掛け、ケアプランの見直しにも役立てています。		

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況や要望に応じて、通院、買い物その他、相談内容により、できる限りの対応を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、傾聴ボランティアの受け入れを控えさせていただいている為、しばらく交流は行っていない状況です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医、本人、家族の希望による医療機関にて受診できるよう支援しております。利用者の状態が低下し、通院が困難になってきた場合は、協力医による回診を受ける事も提案させていただいております。	入居後も、原則従前のかかりつけ医の継続を支援し、家族対応で受診している。東京や仙台方面の遠隔地に住む家族が多く、また、徐々に身体状況の低下がみられる利用者は、協力医療機関の訪問診療を希望し、現在5名が利用している。義歯の不具合や歯科トラブルの際は、訪問歯科診療で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、グループホームに看護師の配置はありませんが、併設する特養の看護師から協力を得て、毎日の状態報告や相談を行ったり、サービス担当者会議の参加を依頼しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	事業所の協力病院については、特養の看護師を通じて情報交換、相談ができるようになっています。その他の医療機関については、入退院時に家族と一緒に医師からの説明を聞いたり、看護師からの申し送りを受け、今後についての話し合いを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難になってきた場合の事については、入居時に併設の特養に移行する事が可能であるという説明をさせていただいております。また、急変時、終末期の対応についても確認を行っております。	これまでに看取りの実績は無く、併設の特別養護老人ホームへ2名入所した実績はある。「出来ればこちらでお世話になりたい」という家族の強い希望を尊重し、立位が難しい利用者のトイレ介助を2人体制で行う等、可能な限り事業所に対応している利用者もいる。特養入所以外は、医療機関入院に伴って退所している。	

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の中で、医療に関する資料をもとに、様々なケースについての対応方法を、理解し実践できるよう努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜それぞれの時間帯を想定した避難訓練、非常招集訓練を実施しております。	ハザードマップ上の危険は無いものの、近隣住民からは事業所の南方にある川が以前氾濫したとの情報を得ている。法人の各施設は、水害危険地帯にあり、万が一の場合、折居館が避難先となっており、受入れ側としての対応が求められる。これまで、薄暮時や職員1人体制での避難訓練は実施しておらず、「地域協力防災会議」では、地域住民からの協力意向は示されているものの、具体的な検討には至っていない。	夜勤職員を中心とする一人体制での避難対応や車椅子利用者の避難、薄暮時の訓練、特養職員との役割分担、更には地域住民と合同での訓練等、ミニ訓練も含め計画的に全職員が経験できる機会を設定して繰り返し行ない、災害等の発生に備えられるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格、生活歴等をふまえ、傾聴の仕方、言葉掛け、対応に配慮しています。言葉遣い、対応の仕方については、職員間で話し合いを持ちながら確認をしております。	事業所での1日の流れは決まっているが、入浴時間等に対する利用者意向は尊重している。帰宅願望が強く落ち着きがない利用者への声かけや対応は、職員間で統一したスタンスをとり、不信感をもたれないよう配慮している。息子に迷惑をかけるので「元教師だったことは伏せてほしい」との要望で、「先生」という呼称を禁句とし会話に留意した利用者もいた。調査時、入居者は全員女性であったが、入浴、排泄時の異性介助を嫌がる利用者はいない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を深め、話しやすい雰囲気作りを心掛けています。遠慮なく様々な思いを伝えていただけるよう、選択肢を提案しながら支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の調子に合わせて、臨機応変に対応する事を心掛けています。		

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、利用者本人に服選びを行なっていただいたり、化粧の支援を行なう等、その方に合った方法で取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握しながら、献立に取り入れたりし、食事を楽しんでいただけるよう心掛けています。食事作りは、その日の利用者の状態、業務の状況、献立の内容に応じて一緒に行なっております。片づけは、毎日の日課として、役割分担をしながら参加していただいています。	今年度、5月にはミニ居酒屋、6月には駄菓子屋、7月の土用にはウナギ弁当の提供、8月のお盆にはまんじゅう作り、9月にはお月見だんご作り、10月には芋の子会等を企画した。誕生会では、ロールケーキに飾り付けしたり、プリンに生クリームを絞ったりして提供している。食材準備は、絹さやのすじやもやしのみげとり等を担当してもらい、食後には、ランチョンマット集め、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き等それぞれの役割を担っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日記録をとり、状況を把握しています。食事状況の申し送りを行ない、必要に応じてカロリー、水分を補うよう随時支援を行なっております。また、糖尿病や高血圧の方の食事にも配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。その方に合った方法でケアを行なったり、拒否がある方については、少し時間をおいてから支援する等し、清潔を心掛け健康維持につながるよう心掛けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握したり、職員間の申し送りを密にする事で、トイレ誘導のタイミングを見計らっています。トイレに行きたくなると、行動にあらわれる方もあり、そのサインを見逃さないよう心掛けて支援しております。	身体状態が低下しても、なるべくオムツに頼らず、トイレでの排泄支援を心がけている。立位が難しい利用者でも職員2人で介助し、入居者全員がトイレを利用している。入院しオムツ使用状態で退院してきた利用者にも、トイレ使用を目標に支援しリハビリパンツに切替えている。排泄チェック表は、毎日活用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を常に確認し、申し送りを密に行ないながら支援しています。それぞれに飲食物の種類や提供するタイミングを状況に応じて工夫したり、便秘改善につながる運動やマッサージを実施しています。		

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分に合わせて、本人に確認しながら入浴を勧めています。帰宅願望で不穏になる方には、入浴回数にとらわれず、入浴を勧める事で落ち着く為、精神安定を図る方法としても働き掛けています。また、入浴剤、ハーブ、花、音楽等を利用して楽しむ工夫も行なっています。	季節感を味わう菖蒲湯や柚子湯としたり、職員が自宅から持参したミントや施設内のバラの花びらを浴槽に入れ、香りや視覚で楽しむ工夫を行っている。週3回の入浴を基本としているが、午前中嫌がったら午後再度声がけをし、夕方入りたい利用者には希望に沿った対応をしている。身体の状態が低下し、事業所での入浴が難しい時は、特別養護老人ホームのシャワー浴や機械浴槽の利用も出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子を見ながら、休息や就寝を勧めています。また、休息の場所についても本人が安心して、リラックスして休める所で見守りを行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をすぐ確認できるようにしています。受診時に新たに処方された薬、変更があった薬があった場合は特に、内容を周知し服薬後の様子観察を更に注意して行うようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の活動(運動、散歩、余暇活動、外出、仕事)、食事、入浴等、一人一人の状態、意欲に合わせた支援ができるよう取り組んでいます。また、季節ごとの行事も工夫し、楽しんでいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で以前のように地域のイベント見学等はできなくなっていますが、感染症予防対策を行ないながら、ドライブは実施しています。自宅の庭やお花見、花火見学に出掛け、大変喜んでいただいています。現在は職員のみでの対応となっています。	面会制限が続く中、今年度上期の目標を「ドライブや散歩等を積極的に実施し、外での気分転換を図る」とし、出来るだけ全員への働きかけ、情報収集による楽しめる景色や外出先探し、中庭でのお茶会開催や日光浴での気分転換、自宅訪問ドライブによる家族との交流機会の提供等、昨年度よりも多く外出できている。梅雨や猛暑の時期は館内散歩を励行していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方もあり、希望があれば、職員が代わって購入して来るというかたちで対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	思うように面会ができない状況が続いているため、電話や手紙の支援に力を入れています。自ら手紙を書きたいという希望がある方や、家族の要望で年賀状を親戚に出す支援を依頼される方もあり、対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を利用者と一緒に制作し、四季の移り変わりを感じています。常に整理整頓、清潔を心掛け気持ちよく生活していただけるよう取り組みたり、物の配置についても危険がないよう配慮しております。	事業所中央のキッチンに向かい側が共有スペースとなっており、南側の窓ガラスからは、近隣住宅の他、国道4号線を通る車の流れを確認することが出来る。採光も良好で、白を基調とした施設はきれいに清掃され、清潔感に溢れている。キッチンカウンターの反対側には大型テレビが置かれ、その脇の壁には桃の節句を意識した飾りつけがなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで一人でゆっくり新聞を読んだり、昼寝をしたりする方もいます。また、利用者同士で会話を楽しめる場所として、リビングの他、ベランダ、1階廊下や玄関前のベンチ等があります。気が合う利用者の部屋で、写真を見ながら過ごす等、時々場所を変えて楽しめる支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご自宅から使い慣れた家具や好みの物を持ってきていただくようお勧めしています。椅子、テーブル、テレビ、お気に入りの写真、大切にしている物等を用意していただき、少しでも安心感を持って生活できるよう働き掛けております。	各居室は、設置基準の約2倍の広さがあり、ゆったりした空間には、ベッドとその向かい側に低めのダンス、床頭台が設置され、どれも木製で茶系の色調の素材が落ち着いた雰囲気を出している。また、入口には洗面台と温度湿度計があり、窓側にはエアコンが備え付けられている。ダンスの上には、写真立てやテレビ、小物等が置かれ、壁にも写真や好みのポスター、カレンダー等が飾られている。使い慣れた椅子やスタンド式の洋服ハンガーが持ち込まれ、自宅からそのまま移動してきたと思える雰囲気の居室が複数ある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等、場所の確認が難しい方々に、わかりやすい表示を工夫しています。本人だけでなく、他利用者にも確認してもらえるので、利用者同士で教え合う姿も見られています。		